東京日々新聞

百十一號

東海道沼津宿浅間社内奥行せる相撲名人数旅店ふ満ち初日ふ東京の関取多遲しと待暁仲の街より火と失し粉田のタふ蔓延火ハ此地元來海岸まで井水乏しき故を以て消防十分ふらざるを多勢の力士等墳發して樽と桶とを手送りふ香貫の水を運びて百方尽力せる折しも掛けこしる雷線の柱も頽て燃んとす時ふ臨んで

両大関名も火ふ因ける境川ふハ大纏等しく火中ふ飛入て家を倒し柱を抜き猛火をしづ光電機を投ひ鬼神を欺く怪力ハ開化を助ける力士等が大功業といつべきもの

轉〻堂主人記

境川浪右門

大纏長吉

彫榮 渡辺

彫甲 具足屋

東京日々新聞111号　文庫10-8059-2
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library